

<概要>

保健物理学は、職業上または環境から浴びる放射線の安全性に関する基礎的から応用までの広範な学術分野である。日本保健物理学会は、保健物理学の研究開発の成果を利用して、放射線防護のため国や国際機関に提言し、また実務に反映し、産業や日常生活で放射線に対する安全性の向上、社会の発展と福祉の向上、さらに人類の繁栄に寄与する活動を進める。このため、国際機関と連携を保ち、専門委員会、国際対応委員会、放射線防護標準化委員会、研究発表会などを運営し、セミナーやシンポジウムを開催するとともに学会誌等を発行する。

<更新年月>

2009年02月

<本文>

1. 保健物理と日本保健物理学会の目的

保健物理学は、職業上または環境から浴びる放射線の安全性に関する基礎的な科学から応用までの広範な学術分野である。

日本保健物理学会は、放射線の安全性に関する学術の発展と関連する様々な技術の開発を促し、その成果を実務に反映し、産業や日常生活で放射線に対する安全性を向上し、社会の発展と福祉の向上に貢献するとともに、放射線から人々を防護するため国や国際機関に適切に提言する。図1は当学会が取組んでいる分野を示す。

2. 活動

当学会には、上記の目的に向けて以下のような活動がある。

(1) 研究発表会

年1回開催する。発表会では、環境放射能（ラドンなど）、放射性廃棄物、放射性物質の環境動態、放射線量の測定・評価、環境保全、防災・緊急時対応、放射線の生物影響、医療被ばく、規制と体制等の分野での研究開発の成果を発表・討論する。

(2) 専門研究会

各専門分野の特定のテーマに関して、会員が調査・検討した情報や意見を交換し、その結果を会員に公表して本学会の活性化を図る。表1は最近の課題を示す。

(3) 国際対応委員会

本委員会は、国際放射線防護委員会（ICRP）、国際原子力機関（IAEA）、経済協力開発機構/原子力機関（OECD/NEA）等から出される勧告、報告等に常に注目している。

また、その勧告、報告等を検討し、情報を学会員や関係者に適切に示し、適宜討論会を開催し理解と議論等を促すとともに、学会の見解をまとめるにあたり中心的役割を担う。表2は最近の活動例を示す。

(4) 放射線防護標準化委員会

国際放射線防護委員会（ICRP）、国際原子力機関（IAEA）等による、国際的に広く受け入れられている放射線防護の諸原則を基に、日本に適した安全体系を開発する。そのための、放射線防護の標準の制定に関する基本方針、この基本方針に拠る標準の制定・改定・廃止、その標準の管理・普及等を検討する。

(5) セミナーとシンポジウム

様々な研究開発の分野に関して、当学会の主催または関連学会等との共催でシンポジウム、セミナー等を開催する。表3は2007-08年の主な行事を示す。

(6) 保健物理関連会議

国内外の会議や大会に専門家を派遣し、研究開発の成果発表、規制等の基本的考え方の提案・整理、規制体制と技術等に関する意見交換により、保健物理学の進歩・向上とその成果の社会への反映を図る。

(7) 学会誌とニュースレター

学会誌：「保健物理」は当学会発行の学術誌である。放射線の生物影響、環境放射能、放射線安全工学、放射線測定技術、放射線管理技術等の論文を掲載する。あるいは国連をはじめとする国際的な放射線防護の動向の紹介等の記事を掲載する。近年は非電離放射線も対象である。発行は年4回で学会員に配布される。

ニュースレター：学会の理事会、企画委員会、編集委員会等の活動状況や、内外の関連情報の速やかな流布を図る。

学会刊行物：学会誌「保健物理」のほかにも専門書、解説書を出版している。

3. 学会の会員

正会員、正学生会員および準学生会員が約千名。他に賛助会員と団体会員の制度がある。

(1) 正会員

当学会の目的に賛同し保健物理に関心を持つ個人。年会費を納め、学会誌を受取る。研究発表会や各種企画行事へ参加できる。理事会役員の見選挙権および被選挙権を得る。

(2) 正学生会員

大学および大学院生ならびにこれに準ずる教育機関に在籍する学生で保健物理に関心を持つ個人。学生年会費を納めて学会誌を受取るが、役員の見選挙権はない

(3) 準学生会員について

会費が免除される学生会員の制度。活動に参加できるが学会誌の配布はない。

(4) 賛助会員について

本学会の目的に賛同し、その事業を経済的に支援する個人または団体。

(5) 団体会員

本学会の目的に賛同し、本学会誌を予約購読する法人および団体。年会費を納める。

(前回更新：2002年9月)

<関連タイトル>

[日本放射線影響学会 \(13-02-02-08\)](#)

[国際放射線単位測定委員会 \(ICRU\) \(13-01-03-11\)](#)

[国際放射線防護委員会 \(ICRP\) \(13-01-03-12\)](#)

[国際原子力機関 \(IAEA\) による放射線防護活動 \(13-01-01-18\)](#)

<参考文献>

(1) 日本保健物理学会：JHPS (日本保健物理学会)

(2) 日本物理学会、臨時委員会・専門研究会の活動

(3) 日本保健物理学会、国際対応委員会

(4) 日本保健物理学会、主催行事

(5) 日本保健物理学会、放射線防護標準化委員会

(6) 日本保健物理学会、学会紹介

表1 専門研究会の最近の課題(2008)

最近の課題	活動期間(年度)
1.医療放射線リスク専門研究会	2008-2009
2.放射線安全の新しいパラダイム検討専門研究会	2008-2009
3.ラドン測定標準化専門研究会	2008-2009
4.放射線のリスクコミュニケーション検討専門研究会	2007-2008
5. ICRP新消化管モデル専門研究会	2007-2008
6.大学等における放射線安全管理教育連絡会	—

下記の出所をもとに作成した

[出所]日本保健物理学会、<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jhps/j/groups/activities.html>

表2 国際対応委員会の活動(2008)

討 論 の 課 題	年度
1. ICRPレポート「原子力事故等による汚染からのリハビリテーションにおける勧告の適用」 Application of the Commission's Recommendations to the Protection of Individuals Living in Long Term Contaminated Territories after a Nuclear Accident or a Radiation Emergency	2008
2. ICRPの環境の放射線防護に係わる「レファレンス動植物」に関するレポート集] Environmental Protection: the Concept and Use of Reference Animals and Plants	2008
3. ICRPの新勧告 Revision of the International Basic Safety Standards BSS 115	2008
4. ICRP の2005年新勧告 Recommendations of the International Commission on Radiological Protection, 2005	2004

下記の出所をもとに作成した

[出所]日本保健物理学会、http://wwwsoc.nii.ac.jp/jhps/j/groups/adhoc_int/adhoc_int.html

表3 2007—08年の主な主催行事

シンポジウム、セミナー	年度
1. 保物セミナー 2008 、「放射線利用の最前線」、「廃棄物処分の現状」、「新しい国際 放射線防護基準への現場の対応に係る論点」	2008
2. 保健物理学会シンポジウム、低線量放射線による生物影響の最前線	2008
3. 日本保健物理学会シンポジウム、「放射線リスクのよりよい理解のために」	2008
4. 日本保健物理学会シンポジウム、「ICRP 新勧告が出されこれからの放射線防護を考える」	2008
5. 保健物理学会シンポジウム、「内部被ばく評価のための体外計測器に関する標準校正方法」	2008
6. 保物セミナー 2007 、「危機管理、原子力防災、テロ対策」	2007
7. 日本保健物理学会シンポジウム、「中越沖地震を経験して放射線管理の分野で何を学ぶか」	2007

下記の出所をもとに作成した

[出所]日本保健物理学会、<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jhps/j/events/kikaku/kikaku.html>

自然放射線-放射性核種

- ・ラドン・トリウム
- ・ウラン・トリウム系列核種
- ・体内カリウム-40
- ・宇宙線

放射線影響

- ・疫学
- ・健康リスク評価
- ・ヒトの放射線障害
- ・動物実験
- ・生態系影響
- ・社会的リスク

従事者の放射線防護

- ・原子力発電所
- ・ウラン鉱山精錬施設
- ・核燃料サイクル施設
- ・研究・教育機関
- ・加速器施設
- ・医療施設
- ・非破壊検査
- ・健康サーベイランス

従事者の放射線防護

- ・放射線防護の考え方
- ・行為の正当化
- ・防護対策の最適化
- ・線量限度・リスク限度
- ・規制除外と免除
- ・介入措置
- ・潜在被ばくと確率的リスク評価
- ・規制
- ・リスクの受容

放射線測定-線量評価

- ・内部被ばく・外部被ばく
- ・汚染・測定器、測定法の開発

環境放射線防護

- ・測定・モニタリング
- ・評価
- ・緊急時対応

放射性廃棄物と デモグラフィ

- ・高レベル廃棄物
- ・低レベル廃棄物
- ・汚染環境復旧

医療の放射線防護

- ・放射線診断・治療
- ・集団検診
- ・核医学検査
- ・正当化・最適化

訓練、教育、 コミュニケーション

- ・放射線防護の考え方
- ・行為の正当化
- ・防護対策の最適化
- ・線量限度・リスク限度

非電磁放射線防護

- ・静電磁界
- ・極低周波電磁界(ELF)
- ・ラジオ波とマイクロウェーブ
- ・紫外線、赤外線、レーザー
- ・超音波と低周波音

保健物理

図1 日本保健物理学会が取り組んでいる分野

[出所]保健物理学会、http://wwwsoc.nii.ac.jp/jhps/intro_j.pdf